

## 七ヶ宿ダム自然休養公園内の環境整備について



産業建設常任委員会  
委員長 渡部 英幸

去る5月24日、ダム公園内の管理状況や環境整備を主に公園内の桜の木の調査を行いました。

植樹より30数年が経過し全体的に樹木の間隔が狭いため、成長がすでに止まった木や、テングス病、枯れている木などが広範囲に見受けられ早急な手当が必要と感ずります。

また、植樹者のネームプレートはすでに取り外され別に保管しているとのことですが、年数が経過すれば不明の方も出てきますので早急に名簿等の整理を行い植樹者の名前がわかる表示をすべきと考えます。

今回の調査で公園内の場内管理業務が2名の作業員で行っているとのことでしたが、広範囲の草刈り作業はかなりの重労働であり作業員が少ないと仕事量が増え危険が伴うと考えられることから、早急な作業員の補充が是非とも必要と感ずりました。

また公園内の児童遊具については、小規模ながら来場した子供たちが楽しめるような遊具が設置されているが、ダム増水時は水没区域となっているため日頃の管理・点検は重要と感ずります。

公園内の2箇所のトイレも調査しましたが、清掃の頻度を上げ、町内や町外利用者が気持ちよく使用できる施設にするべきと考えます。

今回の調査ではダム公園全体的に思い切った伐採や改修を行い、町の観光の拠点となる必要があることと申し添え報告と致します。



▲ダム公園内の遊具



▲ふるさと振興課による状況説明

## 高齢者福祉の現状と今後の課題について



総務文教常任委員会  
委員長 五十嵐 敏夫

去る5月22日、町の高齢者福祉の現状について調査しました。

高齢者福祉センターの令和4年度介護保険部分の決算状況で、収支とも減額が見込まれる要因として、コロナ禍の影響により人口減少や在宅から介護施設への移行が原因との見解があり、介護職員の充足については現在のサービスを提供するには足りており、介護状況はヘルパーとケアマネジャーより適切な対応がなされているとの説明でした。

次に介護予防事業では「歩く力の維持と生きがいづくり」を二つの大きな目標として掲げ、運動教室や健康推進事業を行っているとの説明に、委員からは行政側でも車いす利用者を搬送できる体制の研究や個人タクシーの導入など、次年度へ向けた予算化が必要ではとの提言がありました。

また認知症高齢者への対応では「早期発見・早期治療・正しい対応」を目標に努めているとのことでしたが、各地区民生委員などとの連携についての質疑には、毎月1回診療所や社会福祉協議会などと協議を行っているとの説明を受けました。

近隣医療機関への通院実態では、行政側の資料で受診者数の多い順に見ると、刈田総合病院、県南中核病院、置賜総合病院、高島病院、藤田総合病院となっているとの説明に、委員からは高齢者や独居老人などが町営バスの利用できない医療機関への移手段として、今後、介護タクシー導入などの行政対応が必要との意見があり、町民の福祉向上のため更なる対策の必要性が求められることを申し添え報告と致します。



▲所管事務調査会議



▲社協での送迎の様子